

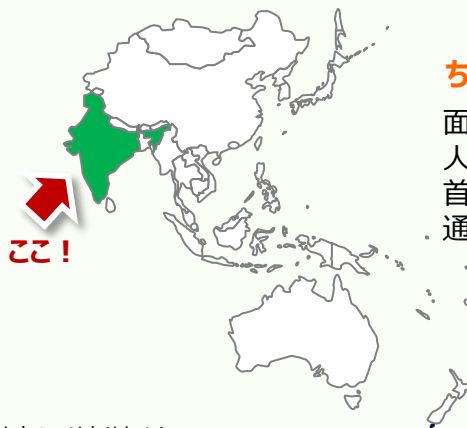
# インドってどんな国？



## インドの概要



面積：約328万km<sup>2</sup>  
人口：約12.1億人  
首都：ニューデリー  
通貨：インド・ルピー



### ちなみに日本は？

面積：約38万km<sup>2</sup>  
人口：約1.3億人  
首都：東京  
通貨：日本円

人口は2010年推計

地図はイメージ図であり、実際の地理的位置や大きさを正確に示したものではありません。

(出所)国連「World Population Prospects: The 2012 Revision」、外務省、総務省ホームページなどを基に野村アセットマネジメント作成

## 経済成長を支える人口大国

インド経済は、約12億人の巨大人口に支えられています。2030年には約15億人に増加し、中国を抜いて世界第1位になる見通しです。

インドは総人口に対して働き手の割合が高く、2020年頃から“人口ボーナス期”が続く予想となっており、今後の高い経済成長が期待できます。

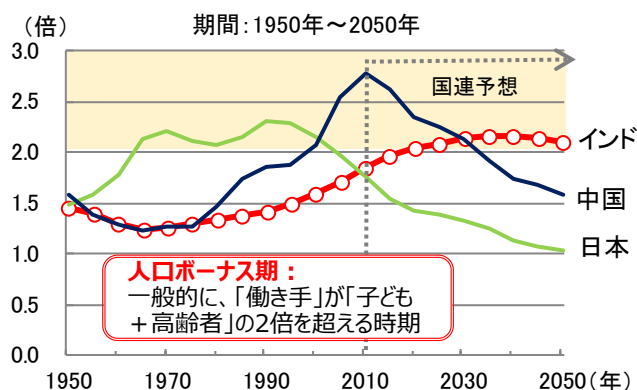
“人口ボーナス期”中、は経済成長が期待できるといわれています。日本では“人口ボーナス期”に高度経済成長が起こりました。

## 期待されるインド市場

国際協力銀行が実施した、日本の製造業企業の海外事業展開の動向に関するアンケート調査で、インドが調査開始以来はじめて有望な投資国1位となりました。

「現地マーケットの今後の成長性」が主な理由となっており、インドの市場拡大期待が現れています。

### ■ 人口ボーナス指数の推移



働き手：生産年齢人口（15歳～64歳）

子ども+高齢者：従属年齢人口（0歳～14歳および65歳以上）

(出所)国連「World Population Prospects: The 2012 Revision」を基に野村アセットマネジメント作成

### ■ 中期的に有望な投資国・地域ランキング



1位 インド

2位 インドネシア

3位 中国

(出所)国際協力銀行「わが国製造業企業の海外事業展開に関する調査報告 2014年度海外直接投資アンケート調査結果(第26回)」を基に野村アセットマネジメント作成

上記は過去のデータであり、将来の投資成果を示唆あるいは保証するものではありません。

当資料は、投資環境に関する参考情報の提供を目的として野村アセットマネジメントが作成したご参考資料です。投資勧誘を目的とした資料ではありません。当資料は市場全般の推奨や証券市場等の動向の上昇または下落を示唆するものではありません。当資料は信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。当資料に示された意見等は、当資料作成日現在の当社の見解であり、事前の連絡なしに変更される事があります。なお、当資料中のいかなる内容も将来の投資収益を示唆ないし保証するものではありません。投資に関する決定は、お客様ご自身でご判断なさるようお願いいたします。投資信託のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡します投資信託説明書(交付目論見書)の内容を必ずご確認のうえ、ご自身でご判断ください。

## 原油安による影響

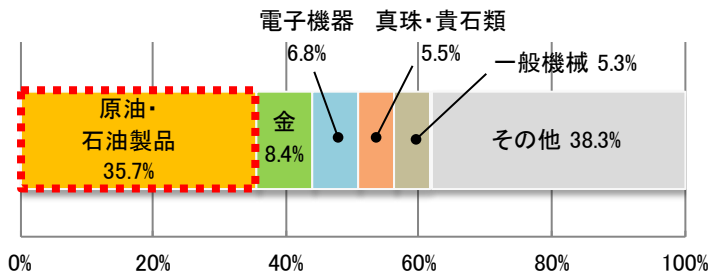
インドは新興国のなかでも、特に原油安による経済へのプラス効果が大きいと考えられます。

インドは、ロシアやブラジルのように資源輸出国ではありません。インドの輸入品のうち35.7%が原油・石油製品です。

原油価格の低下は、インフレ率の低下や経常赤字の縮小につながり、インド経済に好影響を与えることが期待されます。



### ■インドの輸入品内訳（2013年）



(出所)JETROのデータを基に野村アセットマネジメント作成

### ■原油価格の水準とインド経済見通し（2015年）

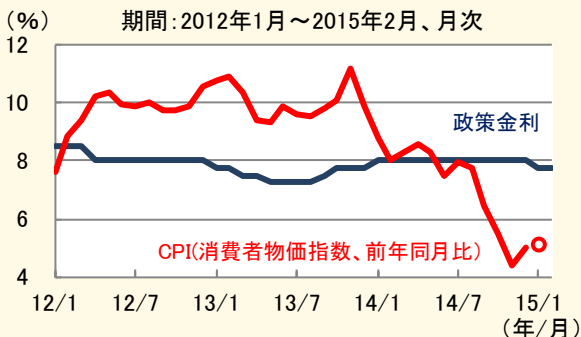
想定する原油価格 (1バレルあたり)	100ドル	59ドル	30ドル
実質GDP成長率（前年比）	6.3%	6.4%	7.0%
インフレ率（前年比）	7.2%	5.4%	4.5%
経常収支（対GDP比）	-2.1%	-1.0%	-0.3%
財政収支（対GDP比）	-4.1%	-3.6%	-3.6%

実質GDP(国内総生産)成長率は、基準年を2004/2005年度(2004年4月～2005年3月)とするベース。

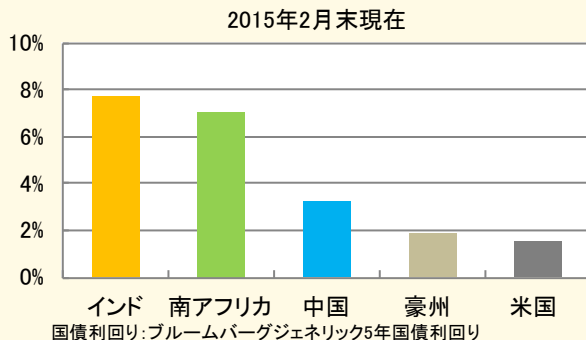
(出所)野村証券「原油価格下落のインパクト」を基に野村アセットマネジメント作成

### ■政策金利とインフレ率の推移

CPIは2015年1月まで。  
2014年12月までは旧基準のデータ。

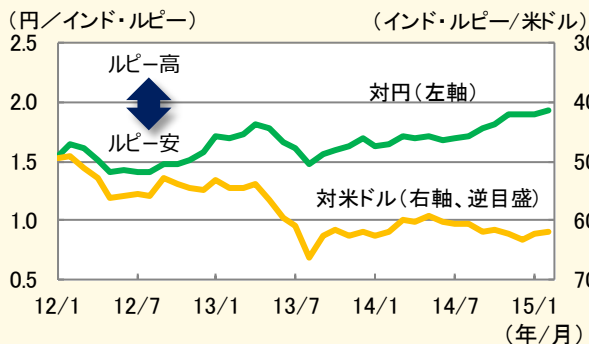


### ■各国の国債利回り比較



### ■為替の推移

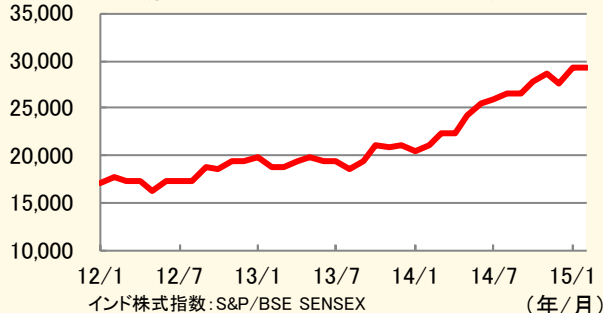
期間:2012年1月末～2015年2月末、月次



(出所)ブルームバーグデータを基に野村アセットマネジメント作成

### ■インド株式指数の推移

期間:2012年1月末～2015年2月末、月次



上記は過去のデータであり、将来の投資成果を示唆あるいは保証するものではありません。

当資料は、投資環境に関する参考情報の提供を目的として野村アセットマネジメントが作成したご参考資料です。投資勧誘を目的とした資料ではありません。当資料は市場全般の推奨や証券市場等の動向の上昇または下落を示唆するものではありません。当資料は信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。当資料に示された意見等は、当資料作成日現在の当社の見解であり、事前の連絡なしに変更される事があります。なお、当資料中のいかなる内容も将来の投資収益を示唆ないし保証するものではありません。投資に関する決定は、お客様ご自身でご判断なさるようお願いいたします。投資信託のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡します投資信託説明書(交付目録見書)の内容を必ずご確認のうえ、ご自身でご判断ください。